

218

演題名：血液像研修システムの構築と運用

演者：清水 聖斗

共同演者：三井 祐宏、大屋 智史、木村 眞明

所属：㈱日本医学臨床検査研究所 第一検査部 臨床血液課

【はじめに】

血液像はマンツーマンで教育することが望ましいが、業務上困難で複数の教育者が入れ替わり研修している。教育者ごとに研修方法が異なり非効率な作業であった。今回、市販ソフト（Microsoft®Excel®）を用いて血液像研修の効率化を図ったので報告する。

【方法】

- ① 標本収集機能で過去データより研修標本を抽出する。
- ② 研修者、教育者の標本カウント機能及びデータ照合機能（研修者、教育者のカウントデータは自動的に入力される。研修者のデータがプラスに乖離している場合にはセルが赤色、マイナスに乖離している場合には緑色に自動的に表示される仕様とした。）
- ③ 教育者より研修者への評価、コメントを記載する機能。
- ④ 研修者は評価、コメントを確認し、再カウント、必要に応じて教育者とのディスカッションを行う。

【結果】

研修者は毎月 5 枚標本（苦手な細胞が出現するもの）を課題とし、1 年間、計 12 回研修を行い、異常細胞の識別ができる技能を習得した。システム導入以前の研修でも 1 年ほどで血液像技能を修得しており、研修期間の短縮に至らなかったが、システム構築によって下記 2 点のメリットがあった。

1. 特定のシステム、専用機材に依存せず、顕微鏡とパソコンがあれば研修の効率化が可能となった。
2. 標本収集システムにより研修標本の準備作業の省力化が図れた。

【考察】

形態学の教育には時間と労力が必要であり、効率化を進める事が改めて必要であると実感した。研修者からは識別困難な細胞の形態所見を教育者に伝達するのが難しいという意見があり、現在、画像を用いての情報交換できるシステムを構築中である。

連絡先 TEL075-631-6185（内線 624）